

報道関係各位

《取材のご案内》

介護現場を大きく変える新技術・次世代オムツセンサー開発を発表

～介護者も被介護者も快適な社会の実現を目指します～

【日 時】2019年9月3日（火）10:00～12:30（報道受付9:30～）

【場 所】早稲田大学 グリーン・コンピューティング・システム研究センター1F プレゼンテーションルーム
（東京都新宿区早稲田町27）

“Recovery”を追求し事業展開を行う株式会社TWO（本社：東京都港区赤坂）は、2019年9月3日（火）、早稲田大学岩田研究室岩田浩康教授と共同で、最新技術を用いた次世代オムツセンサーの製品化を発表します。

日本は65歳以上人口が約28%（平成27年 国勢調査）に達し、超高齢社会へと突入、高齢者率は、2025年には約30%、2060年には約40%に達すると予測されています。介護人材不足は、2025年には37万人が不足（平成28年度 厚生労働省 調査研究 報告書）、深刻な社会問題になると言われています。排泄介護の負担は特に大きく、介護者の6割以上が最も苦勞することとしてあげています（平成25年 内閣府調査）。介護施設でのオムツチェックは2～3時間毎に1回行われており、その作業負担から介護人材が不足する一因となっています。厚生労働省も、介護ロボットの開発・普及の促進を政策にかかげ、強化を図っています。

このような背景から、人を支援するロボット技術を研究する早稲田大学岩田研究室のナノシート電子化技術（特許取得）を用い、これまでに無い全く新しい「オムツ用センサー」を開発します。環境に配慮しつつ、従来の技術より大幅に低価格、簡易性を実現することが可能で、介護者および被介護者双方の大幅な負担軽減も期待することができます。株式会社TWOと早稲田大学岩田浩康教授は、共同でベンチャー企業となる株式会社オムツテックを設立（2019年9月予定）し、介護施設等での実証試験を経て1年半～2年後の実用化を目指します。



【介護業界における本製品活用のメリット】

介護者	被介護者	介護施設
オムツチェックの削減		
労働負担の軽減	尊厳の維持	少ない人員での運用を実現
高齢者を覚醒させず徘徊を減らす	睡眠の質の向上	オムツ購入費/処分費などのコスト削減
データ集積による排泄パターンの予測	迅速なオムツ交換で皮膚かぶれを防止	先進的システムによる介護現場の見える化

実施概要・アクセス

■日 時：2019年9月3日（火）10:00～12:30
（報道受付9:30～）

■会 場：早稲田大学 グリーン・コンピューティング・システム研究センター1F
プレゼンテーションルーム
（東京都新宿区早稲田町27）

■内 容：株式会社TWO含む合計7社が、最新ロボット関連技術・サービスを発表、デモを実施

■登壇者：早稲田大学 岩田浩康教授 ほかに
岩田浩康教授について：

- ・早稲田大学 理工学術院/創造理工学部総合機械工学科 教授
 - ・日本ロボット学会（1983年創立現在会員数約4,100名82団体）理事
- 人間を支援するロボット技術を研究



東京メトロ東西線 早稲田駅2番出口 徒歩1分

— 本件に関する報道関係者様のお問い合わせ先 —

株式会社TWO

TEL：03-6869-0010 / FAX：03-6869-0011 MAIL：kozue-saito@two2.jp

担当：斎藤（070-3514-4916）